

柳田邦男講演会

臨床のまなざし ～2.5人称の視点～

9月20日(月・祝) 13時～15時

※12時30分開場



**西田幾多郎記念哲学館
哲学館ホール**

参加費: 1,000 円、学生無料

講師: ノンフィクション作家・評論家 柳田 邦男氏

座長: 石川県立看護大学教授 浅見 洋氏

～2.5 人称の視点～

生老病死の出来事は、すぐれて人称性の濃厚な問題です。1 人称は自分、2 人称は家族など身近な人、3 人称は専門家等客観的に見る人です。1 人称、2 人称、3 人称の、どの立場に立つかによって物事の見え方が変わってきます。

臨床に求められているまなざしとはどのようなものでしょう。「2.5 人称の視点」とは、人々の心の痛みを突き放さず、しかも専門的な普遍性をも併せもつ温かいまなざしのことです。「2.5 人称」の視点は、臨床をさらに潤いと柔軟性のある人間性豊かなものに再生させる真の処方箋となることでしょう。

Annual Promenade

**お問い合わせ
お申込み先**

石川県西田幾多郎記念哲学館 <http://www.nishidatetsugakukan.org/>
〒929-1126 石川県かほく市内日角井1 TEL:076(283)6600/FAX:076(283)6320
nishida-museum@city.kahoku.ishikawa.jp

主催: 広々とした看護哲学研究会 いのちにやさしいまちづくりネットワーク

共催: 石川県立看護大学「死生観とケア」研究会 石川県西田幾多郎記念哲学館

「広々とした看護哲学」研究会

人の尊厳について考える時、看護には限りがないことに気づきます。

「広々とした看護哲学」は、広々とした視点と複眼の思考で看護を語りあってみようというものです。何が生まれるかは未知数ですが、広々とした志で希望の種を蒔きながら「悠々と謙虚」を生み「対立的な違いを対象化」すること、「理念をもって看護に向い、看護の中に理念をみつける」ことができたらしあわせです。学びあうことでよりよい変化が生まれ「未来への懸け橋」になれたらと思います。

広々とした看護哲学研究会世話人



柳田 邦男プロフィール

1936年（昭和11年）栃木県鹿沼市生まれ

NHK記者として14年間報道の仕事に携わった後、フリーの作家活動に入る。現代人の「いのちの危機」をテーマに、戦争、災害、事故、公害、病気などのノンフィクション作品や評論を書き続けている。最近では、終末期医療、医療事故、脳死問題、心の危機、言葉の危機、少年事件、絵本の重要性などについて、積極的に執筆と講演を行っている。

<主な受賞>

NHK記者時代の1972年「マッハの恐怖」で第3回大宅壮一ノンフィクション賞、1995年「犠牲・わが息子脳死の11日」とノンフィクション・ジャンル確立への貢献に対し第43回菊池寛賞、2005年翻訳絵本「エリカ奇跡のいのち」で日本絵本賞翻訳絵本賞など受賞多数。

<主な著書>

「生きなおす力」「新・がん50人の勇気」「みんな、絵本から」「言葉の力、生きる力」「壊れる日本人 ケータイ・ネット依存症への告別」「人の痛みを感じる国家」「「気づき」の力」「大人が絵本に涙する時」「「人生の答」の出し方」「砂漠でみつけた一冊の絵本」

<翻訳絵本>

「だいじょうぶだよ、ぞうさん」「ヤクーバとライオンⅠ 勇気」「ヤクーバとライオンⅡ 信頼」「でもすきだよ、おばあちゃん」

<会場案内>



交通アクセス

車利用：北陸自動車道金沢東I.C.～約20分
能登有料道路白尾I.C.～約3分

電車利用：JR金沢駅～七尾線（25分）宇野気駅
宇野気駅から徒歩20分

◎ 現地には駐車場もありますので、車での来場が便利です。